



前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
前橋プラザ元気21
3階

☎ (027) 210-2198

生涯学習とつながり

前橋市生涯学習課長 佐藤 由美子



生涯学習
フェスティバルの開催

厳しい冬からようやく明るい春の日が差し、人と人の交流やつながりが持てるようになりました。

昨年八月には、前奨連主催による「生涯学習フェスティバル」が四年ぶりに開催されました。生涯学習奨励員の皆さまのご尽力により、各地域での生涯学習活動、地域行事、伝統文化を取り上げた広報紙及びパネル展示、また、関係団体との協働が実現し、広く生涯学習活動の周知と奨励が図れたものと考えます。本当にありがとうございました。

公民館事業の充実

一方で、公民館やコミュニティセンターでは、こども絵画教室、親子陶芸教室、スマホ講座、健康教室、音楽会など、誰もが楽しみながら学ぶことのできる機会の提供に努めております。対面式の講座も実施できるようにな

り、人と人をつなぐ交流事業も積極的に行うことができました。

令和五年度から青少年教育事業が生涯学習課に移管となったことに伴い、青少年健全育成活動や赤城少年自然の家、おおさる山乃家を所管し、こどもたちが豊かな自然に親しめる体験活動も推進しています。

社会教育の一翼を担う奨励員

奨励員のみなさまに日ごろ取り組んでいただいている地域での生涯学習活動と、市で実施する社会教育が連動することにより、本市における学びの充実や地域のひとと人のつながりが強められるものと考えます。

生涯学習実践研究会や地域の広報活動など、奨励員のみなさまには様々な事業にご尽力をいただき、改めて深く感謝申し上げます。

今後とも、前橋市の生涯学習の一層の推進のため、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「令和5年度

前橋市生涯学習実践研究会」について

前橋市生涯学習課 井上 乃愛

前橋市を五つのブロックに分け、前橋市生涯学習実践研究会が開催されました。

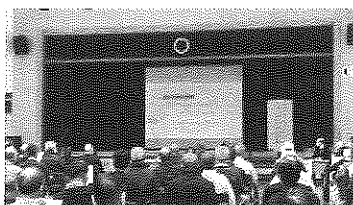
実践研究会は地域づくりの中心を担う生涯学習奨励員、自治会長、生涯学習推進員を一堂に会し、他地域と実践事例の情報交換を行い、今後の地域活動に活かす機会とすることを目指しています。全体で二七〇名の参加があり、各地区の課題等について認識を深める研究会となりました。コロナが少しずつ収束に向か

い、各自治会活動が再開され、さまざまな取り組みが行われていることが窺えました。アンケートでは「各地区の取り組みを聞くことができ、参考になった」「生涯学習の大切さを感じた」等のご意見をいただきました。

内容の詳細については、全ブロックの発表をまとめた記録集を作成し、奨励員の皆様に配布する予定です。ぜひ参考にご覧ください。



第5ブロックの様子



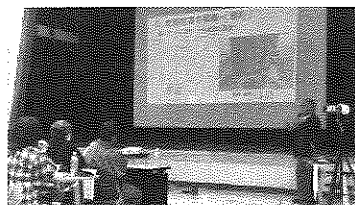
第1ブロックの様子



第2ブロックの様子



第3ブロックの様子



第4ブロックの様子

地区だより ④7

歴史的な情緒の継承へ

地域ぐるみで取り組む

前奨連会長 総社地区

大井 常利

「恩顧創新」は過去を共有し未来を創出するは地域の風致の向上をめざす前橋市の「歴史まちづくり」計画のコンセプトです。昨年十二月にこの計画は国の認定を受け、市の中心部（厩橋地区）と総社地区及び総社の山王地区が認定されました。

地域に広がる歴史の遺産

総社地区は「史跡の宝庫」ともいわれ、多くの歴史遺産がありますが、ここでは今回の市の計画の対象ともなった三つの歴史遺産を紹介します。

古式豊かな
「秋元公歴史まつり」の式典

まず、総社古墳群です。利根川西岸に広がるこの地域は、五世紀からの榛名山の噴火で壊滅的な被害を受けましたが、住民が力を合

わせ復興し、やがて古墳時代を迎えます。五〜七世紀にかけて、この地域には前方後円墳、円墳の六つの古墳が築かれました。まず五世紀の遠見山古墳、六世紀に王山古墳、総社二子山古墳が築かれ、七世紀には、地域の中心部に愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳が築かれました。

この古墳群は、高度の加工技術から大和朝廷との深い関わりがあり、東国文化の前線基地とも言われます。

先人への敬愛を示す「歴史まつり」

次は「前橋四公」に数えられる秋元長朝公を顕彰する「秋元公歴史まつり」の地域をあげての取り組みです。秋元公が、難工事の末に完成させた天狗岩用水が、このほど「世界灌漑施設遺産」に認定されました。地域を潤した秋元公への思いを伝えるべく、前回の歴史まつりは、会場の総社公民館は人波で庭が埋まるほどの盛況でした。

三つ目は、総社山王地区の養蚕農家群です。かつて桑園が広がったこの地区は北方に楳嶺をめぐらした家屋が残り、往時にタイムスリップした景観を今に伝えています。

総社地区は、今回の歴史町づくり計画の認定を歴史遺産と自然景観の愛護に向けて、情緒のある街づくりへの大きなヒントとし、思いを新たに活動に取り組みたいと思います。

生涯学習奨励員。いま、わが町で

「生きがい塾」を

活動の中心に

五中地区・文京町一丁目奨励員

蓮見 安廣

わが町五中地区の生涯学習奨励員の主な活動として機会あるごとに紹介してきたものに、「生きがい塾」があります。これは五中地区（天川八町）の奨励員が中心となり、八町の自治会、社協をはじめ、地域の方々等の支援協力をいただきながら学習意欲のある会員の皆様と共に生涯学習の一環としてこれまで歩んで参りました。第四十四回目となる今年、令和六年も五月九日の開講式を目指し、本年度の会員募集も含めて、現在準備に当たっております。令和二年には念願でありました「創立四〇周年の記念誌」を発刊することもでき、諸先輩各位、会員の皆様に感謝するとともに、更なる半世紀、五〇年誌を目標に、地域上げてのワンチームで頑張っていこうと考えています。また、県立生涯学習センターが町内にあることも有難い支えの一つでもあります。

自慢の二子山古墳

また五中地区には、皆さまご存知の二子山があります。年の暮れ、県外から古墳好きの友が訪ねてきましたので、早速天川二子山古墳に案内しましたが、流石一〇〇坪を超える大前方後円墳の量感あふれる墳丘の圧倒的な迫力に、「凄く凄く」の連発で、国指定の魅力とはこういうものなのかと、それならばと帰路、住宅密集地の二階建ての屋根越しに見える二子山の二分の一スケールと云われる不二山古墳の墳丘を見て、またまた「韓国の慶州みたいだね」と感嘆しきり。「県都前橋の駅近くにもそのまゝの姿で古墳が残されている事はそうそうないんだよ」との話にそう言われればそうなのかと、改めて気づかされたひと時でした。まもなく待ちかねた春本番。お花見を兼ねて天川二子山古墳に散策など如何でしょうか。

様変わりする

ふるさととともに

永明地区・小島田町奨励員

新井 徹

小島田町は、中心市街地から東へ約八km、国道五〇号線と藤岡大胡線の交差点の周囲と、その北側に一五〇世帯四七〇人（内小学生は三六人）ほどが生活する地域です。周囲は農地が広がり、町内には市指定の遺跡や古道あずま道も存在し、昔ながらの通りに家並みが続いています。近年、大型商業施設等の出店により立地環境は大きく変わりました。

事業に積極的なかわり

自治会では永明公民館を中心に行わ



しめ縄づくり

れる市民文化祭等、様々な事業に積極的に参加してきました。町内においても、納涼祭、町内清掃と防災講座等、住民同士の交流に役立つ事業等を中心に実施しています。生涯学習奨励員としてこうした事業活動を支援し、場合によっては企画に参加する等、運営に協力しています。特に正月用の「しめ縄づくり」については、小学生を対象に自治会役員をはじめ、「神明宮」（村の鎮守）氏子役員等のメンバーを交え、老人クラブ代表の方の指導により実施しています。材料は地産の「稲わら」を用いる等、地産地消を念頭に伝統の継承に努めています。

広報の発行で町をつなぐ

諸活動や町の表情の「記録」も奨励員の役割と考えています。年三回「広報 KOJIMATA」を発行（現在二〇号）していますが、編集は自治会役員を含めた編集委員会を開催し、各種自治会活動や、変化する町の表情等をテーマに掲載しています。また、農業地域という土地、四季の中で行われる作業風景を盛り込み、混住化の進む町内住民へ「記録」を届けています。

情報過多、多様化、世代間格差、少子高齢化等が進む中では、何事も次世代へ継承して行く難しさに直面しています。今後ともこれらを念頭に、柔軟な対応をしたいと考えています。

遊休農地活用の

取組みについて

富士見地区・天神平奨励員

周東 聖子

富士見地区天神平の生涯学習活動を報告します。天神平の遊休農地に花を咲かせるというテーマで令和三年から取り組んできました。コロナの蔓延により、ほとんどの活動が中止になってしまいましたが、花の栽培は屋外である事と、比較的少人数でできるので行いました。花の栽培活動に実績のある地域づくり協議会と染色教室で実績のある富士見公民館との協力連携を図り、六月に地域住民を含む十八名でひまわりとマリーゴールドの種蒔きを行いました。その後は順調に育ち、除草作業等を行い、八月に見事に開花しました。



天神平 ひまわり畑



天神平 ラベンダー畑

そして花の鑑賞会を行う予定でしたが、前日の台風により、ひまわりの茎から折れて花は無残な姿になり、花の鑑賞会は中止になってしまいました。マリーゴールドの花を使った染色教室は予定日を変更して行いました。

テーマは遊休農地に花を咲かせることですが、反省してみますと、ひまわりもマリーゴールドも一年草であることと、種蒔き→除草作業→花の開花→刈れ草の処理等を繰り返しますが、問題は開花の期間が約一か月と短く、刈れ草処理後の六か月間は放置地になってしまう問題がありました。

そんな時に小林会長からラベンダーの苗木の寄付三〇〇本を受けたとの連絡がありました。検討してみるとラベンダーは育てやすいハーブのひとつで、寒冷地でも暑い土地でも問題は無く、ラベンダーの効能は高く、安眠・抗菌の効果に加えてリラクゼーション効果もある。試験的に天神平に二三〇本を植えました。今後は利用方法を検討し、富士見町をラベンダーの町にしたいと思っています。

ます。

研修会

成長から成熟へ

「歴史まちづくり法」と

「歴史都市前橋」

群馬地域学研究所 手島 仁氏

歴史的風致の漂う町

前橋は江戸時代初期より「関東の華」と言われてきました。それは、かの徳川家康が前橋城を「関東の華」と言ったからとの事。

時代は下って明治十七年(一八八四)「前橋の顔」として臨江閣が迎賓館として誕生しました。この地は利根川、榛名、浅間等が望める風致に富んだ場所でした。これは初代県令楢取素彦と下村善太郎等市民の努力の賜物でした。

また町なかには由緒ある寺院・神社が多く存在し、郊外には二百基ほどの古墳群が点在しており前橋は歴史的風致の漂う地域でした。

開発によって失われたもの

戦後の前橋は復興のため当然の事乍ら開発を優先し生産都市の時代、デパート林立の時代、更には土木建築都市の時代へと進めてきました。結果としてインフラの充実、暮らし易さの実現等は果たせたものの、そ

の過程において周囲の風致に溶け込み難い構造物の建設、古墳群の工場・住宅団地化、萩原朔太郎生家のデパートの駐車場化等により「前橋らしさ、古き良き前橋(風致)」を失う結果となりました。

古き良いものをとりもどす

前橋は他の戦災都市に比べて「質感のある都市づくり」に遅れを取ってきました。そこで、少しでも「古き良き前橋の風致」を取り戻すべく、近い将来、市当局、市民の協力で博物館建設の可能性が高まってきています。それが国から認定を得た「歴史まちづくり法」です。

これからの前橋の計画

都市計画課からの説明

前橋市は令和四年十二月二十日、国より「歴史まちづくり法」の認定



前奨連セミナーの様子

を受け、計画期間は令和五年度(令和十四年度)となっています。

その内容は「前橋市の維持向上すべき歴史的風致」であり、三つのテーマとして①「関東の華」から「生糸のまち」への変遷にみる歴史的風致②「一五〇〇年都市 元総社・総社」にみる歴史的風致③赤城山信仰と南麓集落にみる歴史的風致ですが、今計画の重点区域を①の一部である「厩橋地区」と②の一部である「総社及び総社山王地区」の二つに設定しました。

あゆみ (1月～3月)

▼II 主要事項

1・22 ■前奨連セミナー▼演題
成長から成熟へ「歴史まちづくり」と「歴史都市前橋」

講師 手島 仁 先生

2・27 ■総務委員会▼理事会対応案件

3・19 ■第5回理事会▼令和5年度総括関連▼令和6年度事業計画・予算関連▼令和6年度総会・研究会開催計画

◆奨励員情報 (敬称略)

令和5年度前橋市社会教育活動功労者感謝状贈呈
茂木 勝彦
(城東町四丁目奨励員・前奨連理事)

◆会報第98号のお詫いと訂正

第98号の

「地区だより」46 糸の町の変遷」

・本文上段2行目

誤: 旧町名の国領・才川・清

王寺から成り

正: 旧町名の国領・才川・清

王寺・東から成り

・本文下段3行目

誤: 教育機関

正: 県立教育機関

訂正させていただくとともに、

深くお詫び申し上げます。